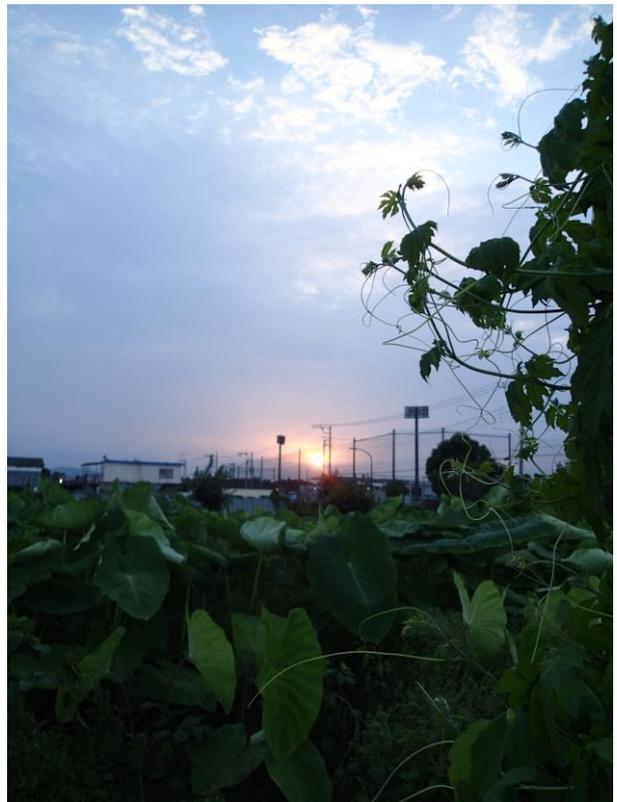


〈明日も晴れるかな？〉

久しぶりに夕陽を見た。雨ばかり降っていたので、夕陽どころかお日様がほとんど顔を見せなかった。梅雨が明けて、さすがに日中は暑いですが、夕方になると涼しくなってくる。久しぶりに見たせいだろうか、なぜか沈みゆく日の光に“ありがたみ”を感じてしまう。日の出を拝む風習が古くからあるように、日没に手を合わせても何の不思議もない。



地上に数多のエネルギーを降り注ぎ、静かに一日を終えていく。そんな沈みゆく太陽に感謝の祈りを捧げる行為は、きっとあちこちであったに違いない。かつて農耕が人の命を支えていた頃は、太陽はまさに“神”そのものだった。地上に豊饒な恵みをもたらせてくれる太陽の一日の終わりに、思わず手を合わせるのはそんな古人の名残かもしれない。

